

## 令和 7 年度 第 3 回栗東市男女共同参画社会づくり推進協議会議事概要

日 時	令和 7 年 10 月 20 日(月) 13 : 30～15 : 00		
場 所	栗東市危機管理センター2 階防災研修室		
出席者	(順不同、敬称略) <b>【委 員】</b> 勝身 真理子、森野 公美子、保坂 誠、山本 勇紀 近藤 淑恵、池田 久代、服部 よし江、村田 希 <b>【事務局】</b> 的場市民部長、濱田課長、松田係長、辻主幹、雑賀		
欠席者	1 名	傍聴者	なし
議 題	栗東市男女共同参画プラン第 7 版（仮）素案について		
資 料	資料 1_栗東市男女共同参画プラン第 7 版素案 資料 2_栗東市男女共同参画プラン第 7 版概要版素案 資料 3_男女共同参画プラン体系図_第 2 回協議会以降における変更点		

### 概要

#### 1 開 会

#### 2 協議事項

案件：栗東市男女共同参画プラン第 7 版素案について

#### 3 閉会

### 市民部長あいさつ

部長        本日は、男女共同参画社会づくり推進協議会にご出席いただきありがとうございます。  
 ございます。

国レベルでは、女性の総理大臣が誕生するかもしれないという動きがございます。政治的な部分は別として、国のリーダーに、女性が就任することによって、いろんなことの改革が進んでいったら、とてもいいことだと思います。

前回第 2 回目の会議を 7 月に開催させていただき、その間委員の皆様からもいろいろご意見をちょうだいしましたし、市役所内部でも、関係課の意見もいろいろと取り入れさせていただいています。

限られた時間の中ではございますけれども、このプランができて終わりではなくて、できた後の実効性のある計画内容となるよう色々ご審議いただければと思います。よろしくお願いいたします。

### 会長あいさつ

会長        皆様お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

最近の内閣府の意識調査で若年層ほどジェンダーバイアスが強いという

データがあります。社会に出て影響され、変化していく部分もあると考えられていますが、今もまだまだ子育てと仕事の両立に悩む女性が変わりがなく、職を変えるという方もいらっしゃる。背景には、女性だから、男性だから、社会的な性別役割意識が根深いものではないかと思っている。また、大学生たちの意識は、男女がともに働き、ともに子育てをする共働き、共育ての感覚が9割を超えているということで、随分意識も変わってきているなどと思う。

先日テレビのクローズアップ現代で、兵庫県豊岡市で、ジェンダーギャップ解消でまちづくりを進め、ワークイノベーションやジェンダーギャップ解消戦略の取組が紹介されていました。一番印象に残ったのは、例えば商工会議所、地域のリーダーさん、教育の方、教員、経営者の方、実際に子育てしながら働く人、また若者、学生たちが一緒になってまちづくりについて、考え、携わっているところ、そこがやはり、実際に現場が動くという原動力になっているのではないかと思う。栗東市においても実は待ったなしではないか。今回計画のご審議をいただくということだが、行政をはじめ栗東市を構成する様々な立場の人が我が事として、それぞれができること。または一緒になって、社会的な課題とか、栗東市の未来の姿を共有しながら、一緒になってできること。そんなふうに取り組んでいかないと、実際私たちの暮らしは変わっていかないのではないかと思う。

本日ご審議いただきます男女共同参画プランもいよいよ大詰めとなってまいりました。栗東市の未来社会に向けて、一人一人の幸せ実現に向けて皆様からご忌憚なきご意見賜り、ご審議を賜りますよう、お願いしまして、冒頭にあってのご挨拶とさせていただきます。

## 協議案件にかかる主な意見、提言、質疑応答等（議長＝勝身会長）

### 栗東市男女共同参画プラン第7版素案

#### 【資料1・2・3】に基づき事務局より説明

事務局　本日お配りした資料は、素案、概要版案、見え消し入りの体系図です。素案と概要版は、専門部会および各課照会で出た意見を踏まえて作成しています。9月に第2回専門部会を開催、各課照会は9月と10月に実施しました。

法令や昨年度実施した市民・事業所アンケート結果全文は、素案内QRコードを読み込んでデータ上で参照いただく形式にしており、QRコードを読み込めば、市HPにリンクされる設計となっています。

総ページ数を絞り込むことで、より多くの市民にとってプランが見や

すいものになることを期待するものです。具体的取組の表現をシンプルにすることにも留意しています。

体系図については、第2回協議会后、庁内各課ほか意見を踏まえつつ更新を行いました。更新内容は、資料3を参照してください。

定性目標、定量目標は、第6版の内容を踏襲しつつ、7版の体系に合った形で整理と組み換えを行いました。

定性目標数 第6版：61 →第7版：72（うち、新規15）

定量目標数 第6版：33 →第7版：30（うち、新規2、変更2）

議長

資料3の基本目標1「多様性を尊重し、つながり生きられる」の基本施策「地域社会における男女共同参画推進」の数値目標は掲げていないと思うが、お考えをお聞きしたい。

また、基本目標3「だれもが安心・安全に暮らせる」の数値目標が2つしかない。基本目標は3つの柱があり、特に3つ目はすごく大事だと思うので、もう少し各所管課にご検討いただけないか。数値目標は施策を取り組み、推進する状況でこれだけは達成したいという目標が見えやすい。力を入れるところが見えやすい。5年後の状況で進捗度合いもわかりやすい。数値目標がないと他の政策に比べて推進する力が弱いのかという印象。数値目標設定に考え方を伺う。

事務局

「地域社会における男女共同参画推進」に関して、数値目標ができる項目がないか検討させていただきます。

基本目標3に関して、第6版でDVを受けたと感じた人の割合を数値目標化していたが、DV相談件数そのものが増えたこと自体、悪いともとれない。要はDVそのものが増えたかもしれないが、DVだと早めに気づいて相談し、初期対応出来たというとらえ方もあったので、あえて数値目標化はしませんでした。数値目標が非常に少ないということは認識をしているので、数値目標できるものがないか再検討させていただきます。

委員

1点目、資料1の3ページ、課題で男女共同参画都市宣言の認知率が低下しているとある。現状39.2%からあげていきたいということだが、次期プランは内容が盛沢山になっていると話があった。認知率があっても今の計画より少し内容が増えるのはいいが、全くわからない中でボリュームだけ増えるとどれだけ浸透するのかなと思うし、実際何をやっていいのかわかりづらいと思う。どのように工夫されるのか気になった。

2点目、8、9、17ページにイラストがあるが、アンコンシャス・バイアスを感じる。特に17ページのイラストに関しては男性の警察官が社会で活躍されている。お母さんと子どもが手をつないでいる。今はこういう形が多いと思うがどうなのか。

- 議長 認知率の向上は、具体的にこういう計画を機に、どういう形で市民の方に周知を図っていくのか、市民の理解があつてこそその推進に繋がっていくと思うので具体的にお答えいただきたい。
- 事務局 1点目、認知率に関しては、一朝一夕に増えるとも考えていないので、地道な周知が必要だと思う。機会あるごとに、宣言に関する内容を情報発信するというのが1つのやり方ではないかと考えています。
- 2点目、イラストは、事前に会長からアドバイスをいただいております、他の修正する過程の中で一旦全部削除しています。
- 委員 先程、豊岡市の話があつたが、栗東や草津にも商工会議所があると思う。そこには一定数の企業が属しており、セミナーやイベントをやっているので協力して認知向上したらいいのではと思った。
- 議長 栗東市は条例を作っていないが、これまで宣言があるので作りませんと聞いてきた。計画を進めるにあたって根幹となる都市宣言だと思うので、5年間かけて60%を目指すという目標を掲げているので、今おっしゃったように色々な機会を通じて、市民の意識を高めていく。関心を持っていただくのも大事なことです、ぜひ具体にご検討いただけたらと思う。
- 委員 1点目、目標が色々ある中で、体系図と目標を比べたときに、たくさんあるものと、体系図にはあるけれど目標がないものがある。目標はないけれど、もちろん取り組んでいく事になるが、もし今後いろんなところで聞かれた場合、そのあたりの整理はどうされるのかなと思う。
- 2点目、重点で、「ワーク・ライフ・バランスの推進」と、「女性が多様なキャリアやライフプランを選択できる社会づくり」を選ばれているが、それが目標にわかりやすくなっているのか。特に力をいれていくところを今後どういうふうに打ち出していくのかお聞かせいただければと思う。
- 事務局 1点目に関しては、定量目標化、数値化するのに、特に基本目標3点目は苦慮したところです。
- 数値目標の設定が難しい代わりに、できる限り定性目標として、数値化はされていないけれども、取り組みとしてできるだけフォローをしようと考えました。
- 2点目に関して、子育て世代の就業率が低いことに関して問題意識を持っており、ライフステージにかかわらず、仕事を続けていける社会を作っていきたいと取り組みを設定しているが打ち出しが弱いということか。
- 議長 委員の質問の補足をする、計画のなかに重点目標として書いているが、なぜこれを重点にしたのかは今説明いただいたが、それが計画のなかで見えないということ。他の基本施策と並列して同じような書きぶり

なので、重点を打ち出すなら、目標値の中でも重点目標値はこれだというような形がないという話ではないか。

委員 3点目として、指標設定 No16.18 で、待機児童数、学童保育を0にするとあり、本編の14ページに「自分らしく活躍できる」があるが、「このことで学童の待機児童がある」とこの重点目標が達成できない。だからこれを目標において、その目標のためにこういうことをします」というような整合性がなく、学童のことが書かれていないなと感じた。これが課題だからこれを重点にしておき、目標を立てた。目標のためにこの取り組みをするというところが見えづらい感じがした。

議長 この2つは重点としてやりますという意味表示だと思うが、ここでこれをやりますというのが、具体的に分かった方が良いということ。数値目標と本文との整合性も。これから最終版に向けて、整理をされるかと思うので確認をお願いしたい。重点目標の書きぶりに関しても検討をお願いしたい。

委員 1点目、指標設定 No16.17 で保育園の待機児童数と延長保育をしている保育所数などが挙がっている。実際には、保護者が希望しないところまで勧められて、待機数で残っているということを聞いている。無理にゼロにするのが目的なのか。今女性の方が働きたい、働きやすい環境を整えていくための待機数の解消にするのか。また、延長されることについては、働く方の負担もかかってくるので、そういうこともどのように取り組まれるのか、支援されるのか。

2点目として、今5組に1組の離婚率があります。女性だけではなく、男性側も子育てされることになる。そうなると、私たちの世代は、孫も見ないといけないし、親の介護もしなければならない。上からも下からも突き上げられて、大変な状態の方を何人か見えています。そういうことについても総合的にどういう支援をされるのか、そういうことの取り組み方が必要になってくるのではないかと考えている。それが保育、学童、そして介護、自分たちの生活まで繋がり長いスパンで考えていただく必要があるのではないと思う。

今までは区切り、区切りのプランが多い。これからは総合的に長く重なっていくような支援の仕方というのをどのように取り組んでいこうと思っておられるかお考えを教えてください。

事務局 全般的に5年経ったら総入れ替えというより、継続的に取り組みが必要な分野というのもあって、第6版との連続性も保ちつつというのは全般的に意識してきたところです。

委員 今まではきれいにまとめられすぎている。実際市民の生活はもっとひどい状態。市民の立場、足元に目を向けていただくような取り組みが必要になってきていると思う。

そういうことについて、今このプランが終わったから7版に向けて継続しているというだけのプラン策定ではないと思っている。

議長

プランのためのプランではないということ。実効性があり、成果が見える必要がある。市プランの策定により、実際に物事が進み、それが繋がっていくということではないか。

基本目標1の多様性を尊重の(3)地域社会における男女共同参画推進について、「男女共同参画の観点で、誰もが栗東に暮らしたい、暮らし続けたいと思える市民や企業など連携の仕掛けづくり」というのが、そういう意味では市民の皆さんと一緒に、現場のリアルも取り入れながら、考えていきましょうという兆し、種まきが見えているのかなと期待している。現場の声もしっかり吸い取ってもらいたい。

この施策について、お考えのところがあればお話いただきたい。大事な観点だと思うので、是非、具体的に展開していただきたい。本会議にも、企業や各関係先の皆さんがご一緒いただいているので、ぜひそこに若い人の声も入るような形で、市政運営の中ではそういう場面がおそらく、他の分野でもあると思いますので、ジョイントできることもあるでしょうし、前向きに考えてもらいたい。

事務局

6版を検証する中で、未達項目が非常に多いことに気が付いたので、結果的にその大半が7版に繰り越ししている。連続性を持たせるという意味合いもあるが、6版で未達項目は基本的にそのまま7版の数値目標に引き継ぎをしています。

未達項目が多い一因としては先ほどおっしゃられたみたいに、いわゆる現場の状況と、市がやっている、描く施策の目標との乖離も一因あるのではと思っています。

暮らしたい、暮らし続けたいの項目で、確かに会長がおっしゃるように現に生活しておられる市民の方の思いや声とやろうとしている政策とがマッチできるようにということで考えたところではあるが、もう少し掘り下げたほうがいいのかという思いを持ちました。

委員

市民の声を聞くという一つの方法として、ある市では図書館の一角を設けて、いろんな相談事や指導をされているところがある。

栗東市もどんどん取り組んで、市民の意見が寄せられるとよい。職業やDVの相談ができて、支援をもらえて、図書館で資料を集めて勉強できるというような仕組みである。積極的に市民が関わって取り組んでいけるし、足を運んでもらうということはそれだけ情報が得られるということ。お互いがやっていくと、もっと市が発展するのではと思う。考え方を変えてもらおうと施策がもっと活きると思う。

委員

先日、社協で開催したボランティアまつりをこれまでとは違うやり方で開催したが、若い人たちの意見を聞いていてよかった。どのようにい

いものを作っていくかという若い人たちの力が、良くなってきたなというのを感じている。男女共同参画社会を目指すなら、地域の自治会役員は、男性は仕事があるから駄目とか、女性は上の役にはつけないという考えをなくしていく努力もしないといけないと思う。

女の人が自分の意見に自信を持って語れるような、そういう講習会とかを作っていって欲しい。もっと自信を持てば、女の人もすごく輝くと思う。市役所や職場の中のリーダーにしても、男女の生き方を輝かせていけるような策定にしてほしい。

昨今民生委員が決まらないという状況がずっと続いている。改革するのはこの男女共同参画の根本が変わってこないとできないのではないかなと感じている。

議長 色々な場面を通じて、気づきや学びの場はできるのかなと思う。女性のエンパワーメント、力をつけていくことが大事になってくる。

事務局 現に暮らしておられる方も、若手の方の意見がなかなか聞けていない。自治会長に関しても若い方が出してくださる意見と、人数割合として多い年配の方との意見が全然違っています。印象としては、若い自治会長からいただく意見、デジタルに関するコメントもかなり多かったが、すごく貴重な意見ということで聞かせていただいた。先程おっしゃられた講習会などに関しては具体的に取り組む中で、何かメニューとしても入れられたらいいなと思っている。

委員 職場でも若い職員が育児休暇を3週間取っていますし、娘家族も育児休暇を1ヶ月とっている。そういう姿を見ると、子どもを育てるのは、今は昔と違って男性も女性も共に子どもを育てていくというふうに変わりつつあるなど目の前で実感している。

男性が上に立って指示して、その後ろでサポートしていくという時代の生き方だったのでそのようにしてきたが、これからは家庭内もそうだが、市でも地域や職場の女性がいろんな意見を言って、男性が声を引き上げてくれて皆の生活の中で少しでもプラスになればと思う。

議長 プラン体系の中でも、男性の家事育児促進があるが、社会的にも要請度が高い。育休取得率の法律ができて、公表しないとイケない促進背景はある。個々の企業さんにおいてそれぞれ抱える課題、取得の取り方、実際取得してどうしているのかという話もある。

若い人もそうだが、企業さんの声も把握していただきながら、進めていただければと思う。

委員 男性育休については、当社でも増えてきているが、確か手取りが8割程度になるということで、有給で2週間3週間休まれている方が半分以上です。そこを会社としてあとの2割を出していくのか。市なり国なりが補填していくのか。経済的なこともあるので、そういう施策がないと

進んでいけないという面があると思う。

議長 各企業の規模や構成メンバーの厚さによっていろいろ課題も変わってきたりする。最近の報道によると、取得した人に加算あるいは取得した人の周りの人に加算するという話も聞く。

委員 育休はここ最近、夫婦そろって取得するとさらにプラスなど色々制度が複雑になっているようです。育休の給付は昔 5 割ぐらいだったと思うが、今は 8 割程になっていて、元の基本給に近いぐらいの給付が出るようにはなっているのもあって男女ともにとる方が増えてきているのかなと思う。

職場でも男性が取得しても結局期間が短いので、代替職員を採用するほどでもないとなると、結局周りに負担がかかるという現実がある。なので、周りの職員にプラスがあるような仕組みができれば、モチベーションが上がるし、休む人も気兼ねなく休みやすいので、そういう仕組みがうまくいくといいなと思う。

議長 男性育休取得は、推奨当初はとりあえず取りましようというところから始まっていると思うが、実際進んできていると、職場運営そのものの働き方改革が大きく影響している。働き方改革が進んでいる職場だと取りやすく、周りへの影響が少なかったりする。

D X 化や A I 導入も含めて、職場運営を見直さないと本当の意味で男性の育休取得は進まない。今後介護も増えてくるので、そういう視点での要請が強くなってくると思う。

委員 私の勤めている託児所に子どもを預けにこられるご家族でも最近お父さんの登場がすごく多いなと感じている。

6 年前に始めた当初より、特に 2 人目のお子さんが生まれるときの前後にお父さんが育休を取得されて、上の子をうちに預けに来るのに送迎から全部されているお父さんは本当に多くなってきている。時短勤務にしてもらえる方もいて、17 時にお父さんが迎えに来ることが可能なお父さんも最近はたくさんいる。ただ、一部のお父さんであって、特に勤め先が大きな会社の方が多い。さらにお母さんが育休中の方は、手当が出ていると思うので経済面で余裕がある印象を受けている。ただそれ以外の方に関しては見えづらい。

職員の年代が大体 30 代 40 代が多く、今まで子育てだけに目を向けることが多かったが、急に親の具合が悪くなり介護問題に直面する女性が出てきている。治療は長期戦になることが多く、通院なるとその通院を誰が連れていくのかという問題がある。特に母親の具合が悪くなると父親も悪くなるご家庭も多く、父親のことも自分が面倒見ないといけなくなる。また自身の兄弟が男性でまだまだ働き盛りだと、女性である自分がメインで親の身の回りのことをする場合が多い。大きな会社で管理職



をされている女性や責任を持った仕事、フルタイムで働かれている女性だった場合は、どうなるのかと考える。まだ小さい子どものこと、親のことを抱えたときに女性の人生は色々あって難しい。全然他人ごとではないなと思いながら自分のこれからのことも考えていかないといけないと思っている。

委員 指標設定 No.7 の管理職に占める女性の割合について、ニュースでも滋賀県は低いとあった。滋賀県が低いのに、栗東はどれくらい低いのか。この数値を目標に挙げておられるけれど、それはどの辺のラインまで持っていきたいと思っておられるのかお聞きしたい。

市職員も No.12 に挙げていただいて、取り組み方はどのようにされていくのか教えていただきたいです。

事務局 女性管理職をただ増やせばいいということではないという認識はしているのですが、具体的なところは正直難しい。令和 6 年実績としては、10 人に 1 人程度にとどまっている。長期間かけて少しずつ増やしていくしかないということで数値を設定させていただいている。

No.12 は 4 人に 1 人ということではあるが、幼稚園、保育園となると、そもそも女性職員が高いということもあって、園長クラスとなるとほぼ女性職員である。

今年度、昨年度の部長級に限ると、昨年度は女性 1 人で今年度はゼロという状況である。全体の職員の性別構造、性別割合が違うので、一概に数字だけで表すのも難しい状況にある。

委員 県の計画でも管理職の割合を出しており、令和 2 年国勢調査で、滋賀県は 14.5%と栗東より高いですが、全国平均よりは低く、目標は国に合わせて 30%としています。

管理職比率はいろんな考え方があると思うが、管理職になるためには、女性も正規に就職した後、育児介護で辞めることなく、一定継続しないと、そもそも管理職になれないと考えています。

なので、今回の栗東市の目標にあるように、ワーク・ライフ・バランスで働きやすい、子育てや介護があってもやめない、子育ても介護もあるけれど何らかの形で継続していけるというのが、女性管理職の割合を増やすにはすごく地道ですけど、5 年後には結果が出ないにしても、辞めなくていい、続ける選択が主流にあることだと思っています。

いろんなお話をいただいて、やはりそういう観点で、ワーク・ライフ・バランスをなぜ進めるかというと、だんだん少子化が進んだら 1 人息子しかいない場合も今後増えてきますので、人生いろんな場面で仕事を継続するためには、やはりワーク・ライフ・バランスが必要である。働きやすい職場づくりが必要だから、重点項目に置いているかと思う。取り組みと

して単に働きやすいだけでなく、自分に置き換えて、子どもが生まれても、親に何かあっても続けられる働き方が全員に必要なという計画であり、研修やセミナーが重要なのかなと思った。

またボランティアや地域活動でも、頑張っておられる女性はいるので、働く場はもちろん、いろんな場面での女性がエンパワーメントのセミナーをしていくとか、そういう取り組みに力を入れるのも皆さんの話を聞いてあってもいいのかなと思った。

議長 第6版と第7版での大きな違いはページ数が格段に減り、シンプルになっている。ただ具体的に何するのかというところが少しわからないので、実際の取り組みを進めていく中で、いろいろと工夫して成果が上がるやり方、実効性を上げるような、波及力が高くなるような事業展開をいただければと思う。本日の協議会が大詰めの会議ということですがけれども、この後本日言い足りなかったところについては少しご意見できるような期間はあるのでしょうか。

事務局 今月末まで追加意見を受け付けます。

議長 パブリックコメントは前回どのくらい意見が出ていますか。また、ホームページで募集されるのですか。

事務局 前は1人の方が7件程度です。ホームページ、広報、各コミセンや市役所庁舎で募集し、素案と概要版を設置します。

議長 認知度の話もあったが、プロセスは大事だと思う。皆さんに周知をいただく一つのツールだと思うし、計画を実行していくには市民皆さんの協力もたくさん必要かと思うので計画段階から皆さんに知っていただくこともご検討いただけたらと思う。

それでは、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。以後の計画策定に向けて、ご検討いただきますようよろしくお願いしたい。さらに市民に読んでいただける計画になるように。宣言みたいな今回は本気でやるという感じがあってもいいと思う。認知度を目標に設定しており、その人によってアプローチの視点も違うと思うので考えていただければと思う。

また、教育場面で、アンコンシャス・バイアスがあると聞く。特に就学前、小学生期。子育てやすい環境づくりも大事。市民の方が転出せず定住していただけるようぜひ教育面もお願いしたい。

事務局 貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

10.11 ページの指標設定などはもう少し肉付けさせていただけたらと思っています。

パブリックコメントは、市公式LINEでも登録者に配信し、広く周知をさせていただくことができるかなと思っており、コメント等いただけるとありがたいなと思っております。

それではこれもちまして終了とさせていただきたいと思いますが、終了に当たりまして副会長から一言ご挨拶いただけたらと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副会長

色々と活発なご意見いただき、ありがとうございました。

人生を明るく元気に生きるために言葉が開けるっていうのは、とても難しいですけど「負けるな。腐るな。焦るな。威張るな。怒るな。」という言葉があります。

常に男女共同参画はあらゆるもの、場面や状況でこの思いに出会うことがあります。今以上に、生き生きとすべての人々がお互いを認め、尊重し合う社会になりますように。皆様のご意見が将来前向きにますます生かされ、より自分らしく活躍し、自己実現できる、安心安全に暮らすことができる栗東。その栗東に対して新プラン第7版が策定されることを心より願っております。本日はありがとうございました。

事務局

1点事務連絡があります。2月に予定している第4回協議会の日程をお伺いしたく、10月末までにメールまたはFAXでご都合を教えてください。よろしくお願いいたします。

ご意見シートはメール等で送付させていただきますのでご活用ください。

事務局

委員の皆様には、長時間にわたりありがとうございました。以上で第3回の協議会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。